

お 名 前	性 別	終戦時の年齢	現 住 所
鈴木 昭三 <small>しょうぞう</small>	男 性	1 8 歳	新城市作手

「戦争のむごたらしさ」

「東三河郷開拓団からの手紙」より

(部分修正)

私は昭和16年7月、14歳の時に父母、弟、妹一同で一家をあげて満州へ渡りました。龍江省甘南県三合屯東三河郷開拓団への入植でした。当時の開拓団には、約200戸、300人ぐらいいました。馬や家畜もいました。それからオオカミもいました。東西南北どちらを見ても地平線で広々とした草原でした。そこを開拓したり満州人の畑を買収したりして農業を始めたのです。

まず、種まきです。4月20日頃より小麦をまき、大麦をまき、トウモロコシ、あわ、高きび、大豆、小豆、馬鈴薯、エン麦、野菜と次々にまき、6月の中頃までに終わり、そこから除草を3回通り行いました。(農業の戒め3訓)

1 上農は草を見ずして草を取る……草の芽が出ないうちにとること

2 中農は草を見て草を取る …… 草の芽が出てからとること

3 下農は草を見て草を取らず …… 草が伸びてもとらないこと

その結果、収穫に大きな違いが出てきますので家族力を合わせて一生懸命働きましたので、穀物がたくさん採れました。供出も進んでたくさんできました。

私が子供の頃、家が貧しかったので一生懸命働いて少しでも豊かになることを願って働いていました。満州に来たのもそのためでした。一生懸命働いたおかげか、私の家では畑を10町歩、水田4町歩ほど栽培するようになりました。また、馬6頭、牛2頭、乳牛1頭、豚10頭、ニワトリが約30羽ほどいました。



トウモロコシの収穫 東三河郷開拓アルバムより

昭和20年8月、太平洋戦争が終わりました。それからが私たちの戦争でした。ソ連軍が進駐してきました。それから八路軍が攻めてきたので馬、牛、豚など、全部満州人の友人に譲りました。何ともいえない無念な気持ちでしたが、生き延びるためには仕方ないことでした。やむなく東三河郷開拓団を捨てることにし、東へ20kmぐらいの所に東陽開拓団があり、そこへ終結することになりました。東陽開拓団では、一冬過ごすことになりました。満州の冬は零下38度ないし、40度ぐらい下がるほどでした。濡れ手で鉄ものを持てば、磁石のように張り付

いて落ちないほど凍^{こお}るのです。

食糧^{しょくりょう}もなくなり、塩もなくなりみんな病気になり、大勢の友人たちが死んでいきました。私の母や兄嫁^{あによめ めい}、姪が死んでいきました。またある人は鉄砲^{てつぽう}で撃たれ、ある人は槍^{やり}で突き殺^つされていきました。戦争のむごたらしさを見てきました。

皆さんが大人になったら、戦争の内平和の国にしてくれることを願っています。40数年も過ぎた昔^{むかし}なので忘れてしまったこともたくさんあります、だけど戦争だけはしてはいけないのです。

平成2年10月31日

(記録 真弓 寛さん)